



## 7月 土居隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7 入所アロビック 10:00~	8 ながつしおがっこう 長津小学校 ねんせいりんほくらん 3年生隣保館 がくしゅう 学習	9
10	11	12	13	14 入所アロビック 10:00~	15	16
17	18	19	20	21 入所アロビック 10:00~	22	23
24	25 しょくぎょうそうだん 職業相談 10:00~	26 3B体操教室 たいそうきょうしつ 10:00~	27	28 入所アロビック 10:00~	29	30
31						

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。

### 隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

悩んでいることはありませんか？

隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」、「職場や学校に行けない」など悩みがありましたら、何でも相談してください。また、毎月25日（原則）は、ハローワークの巡回相談（職業相談）を行っています。巡回相談は、電話による予約制となっています。

## 土居隣保館便り

令和4年  
7月号



発行：土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原5-400-3 TEL/FAX 28-6356



土居隣保館は、社会福祉法に基づき地域住民のコミュニティーセンターとして、社会福祉の充実や増進を図るとともに、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決を図るために設置された施設です。人とひとが交流を図り、誰もが住みよい地域づくりの拠点として、相談事業、各種講座や学習会、貸館事業など「人権と福祉のまちづくり」の実現に向けて、さまざまな隣保事業に取り組んでいます。

皆さんのご来館をお待ちしています！

## せんじん い かた まな ～先人の生き方に学ぶ～

私たちの地域には岩崎伊三郎さん、江口いとさん、安藤正楽さんなど差別と闘った先人がいます。差別を許さず、人を愛し、人々の暮らしを守ったその生き方は、私たちに多くのことを教えてくれました。それぞれの先人の生きざまをシリーズで紹介していきます。

### むらびと く よそ つづ ひと いわさきいさぶろう 村人の暮らしに寄り添い続けた人 岩崎伊三郎さん ①

#### 1 入会権の獲得

##### ○ 国有林の入会権は生死に関わる大問題

入会権とは、地域の住民が一定の山林や原野を共同で使用することができる権利です。電気もガスもない時代、燃料は薪や枯れ枝、雑木などでした。それらは、食事を作ったり、風呂を沸かしたりするなど生活に必要なものでした。また近隣の村に燃料として薪などを売ることで生計を立てていました。

ところが、村の人たちの国有林への入会権が拒否されるという出来事が起こりました。自分たちの命と暮らしを守るために、村の人たちは入会権の獲得を求め裁判を起こしました。

##### ○ 入会権を獲得する

住民は裁判をするために村の持ち山の松の木を全部売って準備しました。しかし、入会権を獲得するための裁判は予想以上に難航しました。裁判は思った以上に長引き、莫大な費用がかかりました。伊三郎さんは苦しい闘いでくじけそうになる住民の家を1件1件まわって励まし続けました。伊三郎さんを信じた人々は力を合わせて闘い抜きました。その結果、全面勝訴を勝ち取ったのです。

入会権の獲得は、生活を守る闘いであり、不当な差別との闘いでもあったのです。

#### 2 岩崎分教場

##### ○ 学校にいけない子どもたち

当時の村の人の多くは、行商によって生計を立てていました。一度行商に出ると家に帰るのは、盆と正月、その他1年に1、2回でした。親が家にいなため、子どもたちは家の手伝いや子守で学校に行けませんでした。また、学校に行けた子どもたちも差別されたり友だちから冷たくされたりしました。また、学校に守ってくれる先生もいませんでした。

学校に居場所がなかった子どもたちは、だんだん学校に行けなくなりました。

##### ○ 自宅を分教場に

伊三郎さんはこれではいけないと想い、自宅で子どもたちに勉強を教え始めました。その後伊三郎さんは自宅を分教場として開放しました。岩崎分教場では、自ら教師になって子どもたちに読み書きそろばんを教えました。

伊三郎さんは、1894年から子どもたちを教え始め、1908年に分教場が廃止になる前年まで続けました。宇摩郡では学校を別々にすることをやめました。

その後、岩崎分教場に通っていた子どもたちはもとの学校に通うことになりました。

伊三郎さんは子どもたちが学校へ通えるようになるまで、子どもたちに生きる力をつけ

つけたのです。

差別が厳しく生活が苦しい中でも、村人の生活を守り、子どもたちに生きる力を育て続けた伊三郎さん。

人を動かすこと、変えることができる相手のことを一生懸命考え、自分にできることをやり続けていく信念と行動力だということを、私は伊三郎さんから学びました。

続きは、8月号「岩崎伊三郎さん②」で紹介します。

しゅじ  
主事 川上祐志